

プロジェクトで取り組んだ課題

- 本プロジェクトでは、主に東京電力福島第一原発事故によって避難を余儀なくされた福島県富岡町における住民活動への支援協力を通じた実践的研究を進め、そこから得られた成果を政策提言へと繋ぐ取組を進めてきた。具体的には主に、
 - ・避難生活上、直面している課題
 - ・政策的・制度的に取り組むべき課題について拾い上げ、被害構造を明らかにし、政策に繋げるべく取り組んできた。

プロジェクトの結果、提言内容

- （特に）富岡町の住民自助組織「とみおか子ども未来ネットワーク（以下、TCF）」が全国各地で開催してきたタウンミーティング事業への運営支援を通じ、避難生活上の問題点・課題を構造的に整理した。
- 上記の成果をメディア向けシンポジウムの開催等を通じ、学識者・被災当事者・メディア間で議論・共有した。
- タウンミーティング事業から得られた問題や被害構造を冊子としてまとめ、政府や行政機関、メディアなど、関係機関に情報発信した。

プロジェクトの結果（≡提言）は、何を変えることを狙って、誰に向けて発信するか

- 原発避難者の抱える問題が、現行制度のもとでは十分な対応が困難であるため、（中長期的には）制度・政策の抜本的見直しを含めた対応を目指した（日本学術会議と連動）。
- その実現に向け、まず第一に被害構造の実情を国省庁、行政、支援団体、メディア、被災当事者自らに理解してもらうべく、情報発信に努めた。
- なかでも、住民と地元行政に対しては、避難者の実情と問題・課題を共有すべく、「公開討論会」を企画・実施した。住民・行政間の対話が少なく双方の理解が困難な被災地の状況を踏まえ、こうした取組みが恒常的に必要とされることが確認された。
- また、制度・政策の実現にはそれを後押しする「世論」の影響が大きいことから、本プロジェクトの成果を踏まえ、当事者を含む関係者で著書『人間なき復興』（明石書店）を発行した。